金岡湊

設置位置	表示内容
所在地　岡山市東区金岡東町二丁目10	

夏目金之助（漱石）

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区金田1901	

三谷公園と金剛童子

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区瀬戸町南方1603付近	

岡山歴史散歩 ～まちの歴史を知ら～

三谷公園と金剛童子

吉井川は高瀬舟の発祥地といわれ、三谷周辺は船の難所だったので川べに祠を祀っていました。天正年間(1573～1591)、その岡が三谷山へ移された際、妙興寺の僧により「金剛童子」と名付けられました。金剛童子は、病気回復や子どもの守り神として信者を集めています。

岡山市出身で結婚家の内田百閒は、祖母とよく参詣に訪れ、「穏らかや敷の向こうの春の山」と詠み、その句碑は金剛童子の傍らに建立されています。

また、三谷公園は自然豊かで紅葉の名所、憩いのスポットとして愛され続けています。

(資料提供：瀬戸町観光交流協会)

宇垣一成・宇垣纏

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区瀬戸町大内1005（大内公民館内）	

宇垣一成・宇垣纏

二人は、岡山市東区瀬戸町大内に生まれ、大正から昭和初期にかけて活躍した軍人で、大内の小学校（後の大内小学校、昭和36年（1961）に千種小学校と合併後廃校）を卒業しました。

宇垣一成は十代で母校の校長に就任され、退職後は軍に入隊、やがて陸軍大将となり、陸軍大臣や朝鮮総督などを歴任しました。天皇から組閣を命じられましたが、軍部の反発により叶いませんでした。しかし、太平洋戦争後には、衆議院選挙で全国最高票を得て政界に復帰しました。

宇垣纏は海軍中将となり、山本五十六元帥連合艦隊司令長官の秘書として活躍しました。遅しくも終戦日に艦上爆撃機で最後の特攻を行い自決しました。

白桃発見の地

	表示内容
所在地　岡山市東区瀬戸町塩納1407付近	

岡山県史散歩　～ふるさとの歴史をあるく～

白桃発見の地

岡山の代表的な特産品である白桃は、大久保重五郎が発見しました。

重五郎は、慶応3年（1867）に岡山市東区瀬戸町塩納（しのの）の地の農家に生まれ、青年時代に小山益太の農業塾に入門、明治32年（1899）に上海桃の実生から優秀な新品種を発見・育成し、「白桃」と命名しました。

また、大阪農業研究所で園芸を担当し、噴霧器、剪定はさみ、偏刃剪定はさみを考案して、果樹園芸の発達に努めました。

調査後は、関所から自園に持ち帰った桃の栽培を研究し、昭和2年（1927）、新品種「大久保桃」を作り出しました。大久保桃は、岡山県が桃の産地として名声を得る基盤となったのです。

（岡山県・瀬戸町観光コンベンション協会）

西大寺観音院

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区西大寺中3-8-8	

岡山歴史散歩 －西大寺まちなみめぐり－

西大寺観音院

西大寺の創建は、「金陵山古本縁起」によると、天平勝宝3年(751)に藤原皆足姫が千手観音の本尊を安置したことにはじまるとされています。

宝亀8年(777)安隆上人が伽藍を建立する際に竜神から授かった犀の角を堂の下に納め、寺名を犀載寺としたと伝えられており、これが寺名の由来と言われ、地名ともなりました。

境内では延宝6年(1678)竣工の三重塔、江戸時代末期の本堂などが伽藍を構成しています。

Saidaiji Kannonin Temple

According to the *Kinryousan Kohon Engi*, the foundation of the temple is said to be the enshrinement of the principal image of the thousand-armed Kannon in 751 by Fujiwarano Minatanhime.
It is said that in 777 Anryu Shonin dedicated a rhinoceros horn, which he received from the god of dragon, under the cathedral when the construction took place. Tradition says that he named the temple Saidaiji (in Japanese, it means "the temple which was given the rhinoceros"), and it became the origin of the temple's name nowadays, and also the name of the relevant place.
Constructions such as the Three-story Pagoda completed in 1678 and the Main Hall built in the end of the Edo era structure the cathedral in the temple grounds.

西大寺会陽

室町時代から伝わる「はだか祭り」こと西大寺会陽は、約１万人に及ぶまわし姿の男性たちが福を求めて本堂に集まり、御福窓から投下される宝木と呼ばれる２本の木製護符を奪い合う奇祭です。

14日間にわたって五穀豊穣などを祈願する修正会の満願に合わせ、毎年２月の第３土曜日夜に行われます。

平成28年(2016)３月、「会陽の多くが廃絶する中、伝承状況が良好で、行事の規模も大きく、会陽の典型例」として、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

Saidaiji Eyo

The Saidaiji Eyo, alias the Naked Man's Festival, is a festival with a bizarre ritual. Passed down from the Muromachi era (1338~1573), in this festival, about ten thousand men in sumo wrestlers' loincloth gather around the Main Hall, wishing to be blessed. They scramble for the two wooden amulets called Shingi, which is dropped from the window of happiness named Gofukumado.
The festival takes place on the night of the third Saturday in February, arranged with the completion of the vow of Shushoe. Shushoe is a Buddhist rite held on New Year's Day which prays for bumper crops over a span of two weeks.
In March 2016, the festival was designed as a national important intangible folk cultural property. Under the circumstances that many of other Eyos abolish, Saidaiji Eyo was valued for its well-maintained propagation and large scale, being a representative

西川に架かる橋

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区西大寺中1-16-17付近	

岡山歴史散歩 －西大寺まちなみめぐり－

西川に架かる橋

自然の流れではなく、灌漑用につくられた西川は、吉井川の鴨越堰から水を取り入れ、児島湾に注いでいます。

一般に東の大川（吉井川）に対して、西川と呼ばれ、地名や年号、伝承により名付けられた様々な由来を持つ橋が架けられています。

橋を楽しみながら西川沿いやその周辺をたどることで、川と親しんできたまちの歴史に触れることができます。

岡山市

Bridges built over Nishigawa River

Nishigawa River is not a natural river, but it was built for irrigation. It takes water from Kamogoshizeki Weir of Yoshigawa River and flows into Kojimawan Bay.
Generally called as Nishigawa (in Japanese, the river of the west), compared with the eastern big river (Yoshigawa River), the river holds many bridges named after various origins such as their place, constructed era and tradition.
You can feel the history of the city which has been familiar with the river by appreciating the bridges and walking around Nishigawa River and surrounding areas.

Okayama City

千年橋

この地の千年の繁栄を願って命名したものと推測できます。大正6年(1917)に架けられた橋で、強く美しい姿を保っています。

Chitosebashi Bridge

It is estimated that the bridge was named with a wish of eternal prosperity (Chitose) of this place. Built in 1917, it still holds a strong and beautiful appearance.

荒鍬橋

近くに祀られている荒鍬宮では、昭和初期頃まで少年会陽が行われていました。

Arakuwabashi Bridge

In the Arakuwagu Shrine near the bridge, an Eyo (a special festival) by young boys took place up to the start of the Showa period.

境橋

旧町名で北之町と中福町の境界上に位置します。この2町を通る五福通りでは、昔ながらの看板建築が建ち並んでいます。

Sakaibashi Bridge

It is placed on the boundary of two old towns, Kitano-cho and Nakafuku-cho. Along Gofukudori, a street passing through the two towns, there are many old-fashioned billboard architectures.

旧カネボウ綿糸西大寺工場跡地

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区西大寺南1-2-4	

岡山歴史散歩 －西大寺まちなみめぐり－

旧カネボウ綿糸西大寺工場跡地

明治29年(1896)西大寺村とその近在の有力者により設立された西大寺紡績は、明治44年(1911)に鐘淵紡績に編入合併され、鐘紡西大寺工場として操業を開始しました。

第2次世界大戦では、名古屋や大阪などの大工場が被災するなか、無傷で残り、戦後の日本の綿糸生産を支える屈指の工場となりました。

昭和52年(1977)鐘紡本体から綿紡織部門は分離しカネボウ錦糸となりました。

その後、平成6年(1994)に工場は閉鎖されましたが、跡地では平成21年(2009)全国都市緑化フェアが開催されました。

岡山市

Remained Site of the Former Kaneboumenshi Saidaiji Factory

Saidaiji Bouseki (spinning industry) was found by Saidaiji village and nearby personage in 1896. It was incorporated into Kanebuchi Bouseki in 1911, and started to run as Kanebou Saidaiji factory.
During the Second World War, while large factories in Nagoya and Osaka become struck, it remained undamaged and became a leading factory supporting the Japanese cotton yarn production after the war.
In 1977, the cotton spinning business group was split from the main branch of Kanebou and was found as Kaneboumenshi ("Menshi" means cotton in Japanese).
Afterwards, the factory was closed down in 1994, but in 2009 the National Urban Greenery Fair was held at the remained site.

Okayama City

漱石の姉　岸本小勝

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区金田1901	

陣場山遺跡

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区瀬戸町旭ヶ丘2丁目2-77付近	

平松措大句碑

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区瀬戸町瀬戸502付近	

天台宗　中津山願興寺

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区瀬戸町肩脊728付近	

児童福祉の父　石井十次

平面図		表示内容
所在地	岡山市東区上阿知2260付近	

天満宮

平面図	表示内容
所在地　岡山市東区犬島127付近	

定紋石

平面図	表示内容
所在地　岡山市東区犬島235付近	

玉井丸山古墳と玉の井の井戸

平面図		表示内容
住所	岡山市東区瀬戸町観音寺567付近	
地番（公図）	―（道路）	

窪八幡宮

平面図		表示内容
住所	岡山市東区久保618	
地番（公図）	岡山市東区久保618	

岡山歴史散歩　―まちの歴史を知る―

くぼはちまんぐう
窪八幡宮

貞観元年（859）、釜岡庄（現在の西大寺釜岡）の領主であった藤井左馬之進弘満が宇佐八幡宮より分霊を勧請して、建立しました。当宮は古来、武運・勝運の御利益で名高く、室町幕府初代将軍・足利尊氏、岡山城主・宇喜多直家、秀家、池田光政など多数の領主、武人の祈願書や社領寄進状があることから、深い信仰を集めていたことがわかります。

足利尊氏が石段横の「永劫の井戸」で馬一千頭に水を与えたとされ、宇喜多直家は参道に幅八間、長さ一里余り（幅約14.4m、長さ約4km）の馬場を作り、松一千本を植え付け、往事には流鏑馬も行われていたといわれています。西大寺浜の「浮根の松」跡はその名残りであり、松並木は観音院まで続いていたとされています。

また、天正20年（1592）の豊臣秀吉の朝鮮出兵の際、当宮の神主藤井弘晴が同行し、窪八幡宮が鋳造した梵鐘が陣鐘として使われました。この鐘は香川県高松市の法泉寺に現存しています。

その他にも、本殿裏の池には龍神伝説が伝わっており、本殿屋根には顔が龍、身体が馬の彫り物が残されています 。

（掲板提案：窪八幡宮）
岡山市

和算家・窪田浅五郎の墓

平面図	
住所	岡山市東区君津709付近
地番（公図）	岡山市東区君津707番53

表示内容

岡山歴史散歩　ーまちの歴史を知るー

わさんか　くぼたあさごろう　はか

和算家・窪田浅五郎の墓

窪田浅五郎（1773~1838）は江戸時代後期に活躍した和算家です。現在の岡山市東区君津出身で、岡山藩の著名な暦算家・原田元五郎に算術を学び、寛政８年(1796)には算術免状を与えられ、文化２年(1805)に岡山藩士となりました。

文化３年(1806)に伊能忠敬の第五次測量に浅五郎も同行したことが忠敬の測量日記に記録されており、現在の岡山市北区表町から広島県竹原市忠海まで測量や観測を行いました。

伊能忠敬測量隊が用いた測量器具のひとつとして、車輪の回転により距離を測る「量程車」があります。窪田は量程車と同じように車輪の回転により距離を測る器具として「路程車」を制作しており、伊能の量程車より使いやすいように改良されていました。

（看板提案：辰巳町内会）
岡山市

開墾大官人之碑

平面図		表示内容
住所	岡山市東区豊田11付近	
地番（公図）	岡山市東区豊田418番1570	

岡山歴史散歩　ーまちの歴史を知るー

かいこんだいかんにんのひ
開墾大官人之碑

津田永忠は、寛永17年(1640)に岡山弓之町で生まれた岡山藩政確立期の中心人物です。岡山藩主の補佐役として土木事業を中心に藩の産業・生活の基盤造りに尽力し、百間川・後楽園・沖新田・閑谷学校などの開発を指揮しました。

津田永忠は、元禄５年(1692)に広さ約1,900ヘクタールにおよぶ沖新田の干拓に着手しました。この開墾代官人之碑は、文政９年(1826)に地元の外七番東分（現東区豊田）馬場富次郎が永忠の偉業を表彰するために建立しました。「開墾大官人」とは「沖新田の干拓をなされた偉大なお役人」の意で、碑の左面には永忠の没年などが記されています。

また、豊田戎町海岸堤防に明治41年(1908)建立された「沖新田慕徳懐恩碑」（通称佐源太塚）は富次郎の子孫にあたる馬場管三郎によるものです。

（看板提案：栄町町内会）
岡山市

吟蔵大師

平面図	
住所	岡山市東区豊田488
地番（公図）	岡山市東区豊田488番494

表示内容

岡山歴史散歩　―まちの歴史を知る―

ぎんぞうだいし
吟蔵大師

片岡吟蔵（本名：片岡銀蔵）は、四国八十八ケ所巡礼を何度もおこない、弘法大師の教えに感動して自分の屋敷にお堂を建ててお祀りしました。このお堂には岡山・邑久・西大寺などからも巡礼者が訪れるようになり、吟蔵は沖新田八拾八ケ所獨案内を作って巡礼の人々にほどこしていたそうです。

平成５年(1993)その版木が片岡家から発見されました。その版木によると文化８年(1811)自ら発起人となり、世話人・画図師たちと作ったと記されています。版木では、順路が定かでなくなっていた奥の院・特別札所・墓地なども確認できます。

吟蔵が建てたお堂は、今は吟蔵大師(沖新田八十八ケ所特別札所「番外寺」)として建て替えられお祀りされています。

（看板提案：上南歴史を伝える会）
岡山市

沖新田

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区政津1032-3	

岡山歴史散歩 ―まちの歴史を知る―

沖新田（おきしんでん）

沖新田は、もとは海だった場所で、元禄5年(1692)に津田永忠が干拓工事に取り組みました。用水路にそって家が並ぶ様子や、どこまでも続く水田の眺めは、沖新田ならではの風景です。

全長約12kmにおよぶ堤防工事は、岡輪から順番に工事を行うのではなく、全体を9つに分けて競争させる形で一斉に実施されました。9つに分けられた工事現場は、旭川沿いから順に「一番」、「二番」、「三番」…「八番」、「九番」と番号が付けられており、沖新田に見られる数字を含む地名は、当時に仕分けられていたそれぞれの工事現場の番号に由来しています。

また、現在の光津、政津、碁津、井田といった地名は、藩主である池田光政の光政、干拓の責任者である津田永忠の津田という名前に由来するという説もあります。

先人たちのたゆまぬ苦労の上に築かれた沖新田。歴史と知恵を受け継ぎ、今日も多くの人々の暮らしが営まれています。

岡山市

幸島新田

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区邑久郷688	

岡山歴史散歩　―まちの歴史を知る―

こうじましんでん

幸島新田

最初に新田開発が計画されたのは慶安3年(1657)ですが、当時の技術では河口部の干拓は困難とされていました。また、当時の治水学の大家でもある陽明学者・熊沢蕃山は、上流から流れてくる大水が満潮時の海水に行く手をふさがれて洪水が起こるとし、大河の河口新田開発の弊害を説いていました。

しかし、池田茶臣は、新田の排水路末端に樋門と遊水池を設け、満潮時は樋門を閉めて川水を遊水池に滞留させ、干潮を待って樋門を開き、川水を海へ放流する方法を考えました。それが「遊水池」と「樋門」の結合という方法です。永忠は、この技術を幸島新田の干拓で初めて使用し、天和4年(1684)2月に着工、その年の6月には潮止工事を完了させました。幸島新田の開発を成し遂げたことで、永忠は当時不可能とされていた河口部の干拓が可能であることを実証しました。

岡山市

升田の共同濾過槽

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区升田182付近	

岡山歴史散歩　ーまちの歴史を知るー

多言語での説明はこちらから

ますだ　ようどうろかそう

升田の共同濾過槽

干拓地である沖新田では、井戸の水は塩分を含み飲料水には適しませんでした。そのため、水濾し壺を使って用水の水を濾過し、飲料水としていました。

コレラなどの伝染病が流行し、人々の衛生への意識が向上した結果、急速に濾過槽が普及し、各集落に大型の共同濾過槽が設置されるようになりました。その構造は、ポンプで高台の水槽に入れた水を、小石やシュロの皮、砂、木炭などの入った層を通して濾過し、下の貯水槽に溜めるというものでした。

当時、共同濾過槽は各集落に設置していましたが、昭和31年（1956）から上水道が敷設されたことで徐々に姿を消し、現在ではこの場所にある1基のみとなっています。

（看板提案：上南歴史を伝える会）

岡山市

福岡神社

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区西祖218	

岡山歴史散歩 ～まちの歴史を知る～

福岡神社

長和5年(1016)に創建され、「正一位春日大明神」「福岡大明神」と称されました。

平重盛が深く信仰したとされており、保元4年(1159)には平維盛が愛娘の病気平癒の御礼として金銀をちりばめた本殿・拝殿と12の末社を奇進したと伝えられています。

また、武神・剣の神・勝負の神で知られる武甕槌神と経津主神を祀る神社として、武家をはじめ、福岡神社周辺で活躍した刀鍛冶たちも参拝したとされています。観応元年(1350)には、足利尊氏が戦勝祈願の為に数ヶ月滞在するなど、多くの武家の屯所（兵士などが詰めている所）としても使用されたと伝えられています。

その後、池田家が岡山藩主となってからも、代々の例大祭では奉納を続け、信仰が保たれました。当時の様子は参拝絵図に記録され、現在も保管されています。

（権利提案：宗教法人 福岡神社）
岡山市

浦間茶臼山古墳

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区浦間739-1	

浦間茶臼山古墳は、全長約138m前方後円墳で、国の史跡に指定されています。また、令和6年には日本遺産にも認定されました。

この古墳の最大の特徴は、奈良県桜井市にある箸墓古墳（邪馬台国の女王卑弥呼の墓と考えられる）の半分の大きさで形が似ている点であり、畿内地方以外では最大の相似形古墳とされています。

後円部が三段に造られ、前方部が三味線のバチのように広がる形をしており、最も古い形式の前方後円墳です。後円部中央には竪穴式石室があり、長大な割竹形木棺が納められていたと考えられています。出土品には細線式獣帯鏡片や銅鏃、鉄器類などがあります。

この古墳は3世紀末頃(250~299)に造られたと推定されており、吉備の最古の前方後円墳として、当時の吉備勢力が畿内勢力に次ぐ実力を持ち、対外交易における重要な役割を担っていたことを示す重要な遺構とされています。

大廻小廻山城跡

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区草ケ部42-3	

岡山歴史散歩 ―まちの歴史を知る―

大廻小廻山城跡

大廻小廻山城跡は標高198.8mに位置する国指定史跡です。総延長3.2km、面積38.6haにおよぶ古代朝鮮式山城で、7世紀後半に築造されたと推定されています。当時、友好関係にあった百済を救済するため、三国統一戦争中の朝鮮半島へ派兵し、唐・新羅軍を相手に「白村江の戦い」にのぞみましたが、敗に敗れ、敵軍の侵略を防ぐために山城が築かれました。

城跡は、土を層状に叩きしめる版築という工法で造られた土塁で囲まれ、一の木戸、二の木戸、三の木戸と呼ばれる水門跡が確認されています。発掘調査では、列石を伴った土塁線や水門を伴った石塁などの遺構が確認されましたが、城門や城内建築物は発見されていません。

瀬戸内海を展望できる要衝に位置し、備前国府や古代山陽道にも近いことから、総社市の鬼ノ城とともに吉備地域の戦略的重要性を示す貴重な遺跡とされています。

また、城跡内から多数の室町時代の線刻石仏も出土していることなどから、中世には常楽寺（岡山市東区草ケ部）の宗教施設として利用されていたものと考えられています。

（看板提案：沖田字区連合町内会）
岡山市

安仁神社裏山出土銅鐸

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区西大寺一宮957-2	

岡山歴史散歩 ～まちの歴史を知る～

安仁神社裏山出土銅鐸

明治24年(1891)に安仁神社の裏山から銅鐸が発見されました。銅鐸本体の文様が僧侶の着る袈裟に似ていることから「袈裟襷文」と呼ばれており、弥生時代中期（紀元前100年から紀元後100年頃）に作られた「扁平鈕式西区袈裟襷文銅鐸」に分類されています。

明治30年(1897)発行の『考古学会雑誌　第9号　日本考古学会』へ、若林勝邦が初めてこの銅鐸について報告しており、そこには「明治二十四年五月発見」と記載されています。また、同誌で沼田頼輔によって銅鐸の分類と編年についても報告されています。報告によれば、大雨で裏山が崩落した際に、その中から発見されたとされています。

弥生時代の工芸品として貴重なことから、平成3年(1991)に岡山県の重要文化財に指定されており、現在は岡山県立博物館で保管されています。

（看板製作：安仁神社総代会）
岡山市

金山八幡宮と松寿（壽）院参道

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区浅越704-2	

渡場町の由来と豊国橋

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区西大寺南二丁目9-16	

岡山歴史散歩 ―まちの歴史を知る―

わたしは ちょうや らい とよくにはし

渡場町の由来と豊国橋

豊臣秀吉の中国大返しは、備中高松城（岡山市北区高松）から山城山崎（京都府乙訓郡大山崎町）までの約230kmを10日前後で移動した戦国時代屈指の大強行軍として知られています。

中国大返しの際の秀吉軍の行程については諸説ありますが、『上道郡誌（大正11年）』によると、この地域には秀吉軍が吉井川を渡った渡場があったとされ、そのことを後世に伝えるために渡場町と名付けたと云われています。（現在、渡場町という町名は無くなっています。）

また、『西大寺町誌（昭和46年）』には「西川に架る豊国橋は、秀吉が通った橋だから名付けられたと伝えられている。」との記載があり、町名だけでなく橋にも秀吉由来の名前が付けられています。

現在、西川に架かる豊国橋は架替されたもので、当時の様子は伺えませんが、豊国橋の親柱（橋の名前が記された柱）は雄神川神社の境内（渡場ちびっこ広場内）に移設されています。

（看板設置：西大寺を愛する会）
岡山市

矢野恒太生誕地

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区竹原618-1	

馬路山明王寺

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区竹原191-1	

一日市古墳

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区一日市61付近	

岩熊八幡宮

設置位置		表示内容
所在地	岡山市東区百枝月1466	

岡山歴史散歩 ―まちの歴史を知る―

いわくまはちまんぐう

岩熊八幡宮

岩熊八幡宮は、仲哀天皇、応神天皇、神功皇后を御祭神に祀っている神社です。本殿の建立年代を示す資料がなく由緒・沿革は不詳ですが、様式からみて18世紀前期頃の建立と考えられています。

本殿は、屋根を入母屋造とするやや小規模な三間社で、正側面3方に擬宝珠高欄付きの切目縁がめぐらされています。細物や彫刻なども控えめで派手さはありませんが、堅実な仕事がなされている建物であり、本殿と本殿内に納められている厨子2基、金幣1枚、棟札1枚、及び末社である稲荷社の墓塔1基が地域の神社建築を示す貴重な事例として令和4年度に岡山市の文化財に指定されています。

10月に実施される秋大祭では、多くの氏子が参拝し、にぎやかにお祭りが行われます。

（看板設置：角山学区連合町内会）
岡山市